

第7回J-PALS まとめ

患者支援対策室
遠藤永子

日本の“アドボカシー”活動について

国民皆保険施行後、常に修正変更(自己負担率、財源等)を加えながらの50年、最大の成果は、国民間での公平性を高めながら、低コストで良好な健康水準を実現。

多くの変化: 「年齢人口比率」、「医療格差」、「情報混乱」、
「医療・健康への考え方」

今後、「国・国民にとっての医療」の継続性・向上に繋がることを前提として、日本の土壤に合ったアドボカシー活動が必要。

国民の議論する場

信頼ある国民のリーダーとして、患者・患者支援者、医療関係者、政策、メディアならびに企業等、医療に関わる各専門分野で存在し、民意との対話に積極的に携わる。



J-PALSは「患者さん中心」にフォーカスし、日本の状況に応じて患者の声を高めていく目的のもと、あらゆる疾患の患者団体を1つの交流の場として、開催しています。

J-PALSは透明性をもって社会に発信していくために、話し合われた内容(まとめ)について2012年より公開していく予定です。

今後、より皆様のニーズに沿った企画をしていく上で、是非J-PALSにご意見・ご要望をいただければ幸いです。



日本における「アドボカシー」について

「国・国民にとっての医療」の向上に繋がることを前提とした、患者を支援するための具体的な
行動・政策提言